法政大学同窓会　法匠セミナー　2011 年 9 月 17 日（土）
法政大学市谷田町校舎 T411 教室　15 時～16 時 45 分
懇親会　17 時～

「都市をつくる木造建築
―　EU における非戸建木造の現状から」

街を築き、暖を取り、文明の拡大に伴う森林資源の枯渇を経験したヨーロッパでは、その反省から自然環境との共生が大切な生活哲学となっています。自然への愛着と技術的洗練の融合が現代ヨーロッパの住環境を形作っているといっても過言ではありません。

そのヨーロッパでの建築動向の一つとして注目されるのが、木造建築の用途の多様化です。集合住宅をはじめ校舎、オフィスビルなど、様々な木造建築が実現されています。ヨーロッパの町並みが古くからそうであるように、このような集住型の建物は、土地の高度利用ばかりか、エネルギー消費の効率化、コミュニティーの維持にも役立っています。そして、その街が木材でできるということは、親環境型社会の実現にとって大きな意義をもっています。

日本もこれから公共建築など非戸建住宅の木造化に取り組もうとしています。セミナーでは、計画的視点、技術的視点などを多角的に織り交ぜながら、これからの木造建築の在り方について考えてみようと思います。ヨーロッパの先端的事例を参考に、近未来の木造建築の姿に思いを巡らせてみませんか。

トピック

成熟社会の木造建築　「建てられない世の中で」
多様化を支える構法設計の自由
「木造 vs 非木造の終焉さえも」
知識集約型の建築生産　「だれがどのように建てるのか」

講師紹介

法政大学デザイン工学部建築学科教授　網野禎昭
木造嫌いが渡欧を機に木造の道を歩むことに。スイス連邦工科大学、ウィーン工科大学にて木造建築の研究教育に従事。2010 年より現職。